

平成 29 年度 学校関係者評価報告書
大阪市立大正東中学校協議会

1 総括についての評価

学習面や人権、防災に対する生徒の意識調査からは一定の成果が見られるが、学力について大阪市平均を下回っている結果は大変残念である。

また、生活指導面でも、規範意識や自尊感情などについての生徒の意識がまだ低く、生徒指導のより一層の充実が必要である。特に、家庭での生徒の生活習慣に課題が大きく、これを改善するための働きかけがより必要と考える。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95 %以上にする。
- 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について『当てはまる（どちらかといえば当てはまる）』と答える生徒の割合を 90 %にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 区役所担当者と連携して、備蓄倉庫、避難所予定場所の鍵等の整備・共有化を行う。

生活指導担当者は、警察など関係機関ともしっかりと連携し、問題行動や不登校の生徒にかかるわっている。一部の生徒の学校外での悪い評判が気になる。これらの生徒、その保護者への働きかけを引き続き行って、学校の評判を下げることのないように頑張ってほしい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度のチャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- 平成 29 年度のチャレンジテストにおける正答率 2 割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より 3 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度のチャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より 3 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 60 %以上にする
- 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果において特に課題のある柔軟性と持久力についての平均の記録を前年度より 3 ポイント向上させる。

学校の年度目標

- I C T 教育の充実を図るために、全普通教室にプロジェクターを設置する。

学力面でも、体力面でも大阪市の平均より低い結果が出ることは残念である。義務教育9年間の小中一貫した教育を行うとの観点から、より小学校と連携を強くして子どもたちの力を伸ばしてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

学力や体力で、大阪市の平均により近づけるための取り組みを考え実施してほしい。

一部生徒の地域での行動が、学校全体の評判を下げてしまっているが、この現状の改善のための指導を工夫してほしい。

今後発生が予想される南海トラフ地震など大規模災害に対する対策を、地域、関係機関と協力してしっかり取り組んでほしい。学校を避難所として使用する際の鍵の所在を、役所と協議して決めてほしい。